



最近の歯科医学教育の改革に合わせた本学の対応

学務担当 林 誠

最近の歯科医師養成課程では、卒前教育、歯科医師国家試験ならびに卒直後研修において立て続けに新しい動きがみられ、本学でも学務委員会を中心に対応策を検討しています。とくに卒前教育では、本年度から歯学生共用試験（OSCEおよびCBT）が公的化され、これまで各大学に委ねられていた合否判定が全国統一基準で行われるようになりました。また、すべての歯学部・歯科大学で学修しなければならない共通教育内容が示された歯学教育モデル・コア・カリキュラムも改訂され、本年度の新入生から全国一斉に開始されました。

これらの歯科医学教育の改革に対応することも視野に入れて、本学では新カリキュラムを策定し、昨年度の第1学年から運用を開始しています。新カリキュラムでは科目間のつながりを重視するとともに、毎週月曜日に行われる前週講義試験や1年前の学修内容を復習する振り返り講義など、学修機会を様々に設けて知識の定着を促しています。また、第3学年以上が履修の対象となる旧カリキュラムにおいても、学修の深化や診療参加型臨床実習の実質化を目的として、内容の見直しを適宜図っています。さらに、来年度から全学年で1セメスター（前期および後期）15週の授業を14週に変更することによって、過密になった学事予定を緩和し、学生の理解度に応じて個別対応の時間を取りやすくします。

歯科医学教育では、従来型の同質的學生集団を前提とした教育制度では対応が困難となっています。学務委員会では、学生の多様性を理解しながら動向を常に注視し、目先ではなく大局的観点から、これからの時代に求められる歯科医師の育成を目指したいと思います。

（教授 歯科保存学第Ⅱ講座）

多様な研究費で ブランド力のアップを！

研究担当 新井 嘉則

本学部には他大学にないような、多様な研究費があります。特筆すべきことは、下記に示す学内研究費が充実していることです。基金による研究費としては佐藤研究費と、上村安男・治子研究費があります。前者は創立者の佐藤運雄先生の著書の印税を基金として制定され、現在では約34億円に到達しています。後者は故上村安男先生の約6億円の寄付により制定されました。令和5年度実績では、双方を合わせて、30件で総額が1995万円となっています。また、歯学部予算としては総合歯学研究所研究費があり、こちらは29件で総額2900万円となっています。

これらの学内の研究費を起爆剤として、以下に示すように外部からの多くの研究費を獲得しています。

文部科学省からの研究費（科研費）が76件1億1765万円となっています。また、民間企業からの委託研究費は5件、総額980万円、さらには、研究助成金は8件、総額470万円となっています。特許などの知的財産の使用料で毎年約500万円程度が安定的に確保されています。

これらの合算金額は約1億9000万円となり、私立歯科大学でトップとなっています。大学の大きな使命の一つは、質の高い研究をして、その結果を国民に還元するところにあります。そのためにはさらに多くの研究費が必要とされるところです。本学はこれらを活用して、研究業績を上げ、ブレークスルーになるような研究成果を得ていきたいと考えています。

特に、骨の再生、痛みの制御、口腔と全身との関連に関して大きな成果が出てきています。これらを通して、日本大学のブランド力をアップさせて、歯学部の新しい価値を見出したいと考えています。さらなる精進をお願い申し上げます。

学生の皆さんにおいては、ぜひ！各講座の研究室を訪問していただき、将来を担う一員として大きく羽ばたいていただければと考えます。いつでも、大歓迎です。
(教授 歯科放射線学講座)

修学等支援のための 奨学金について

学生担当 本吉 満

学生が経済面でも安心して学習に取り組めるように、日本大学及び歯学部の学内奨学金や、学外の奨学金財団による奨学金制度が設けられています。これらには給付型と貸与型があり、それぞれ対象となる条件を確認したうえで、積極的に活用して下さい。

1. 給付型奨学金

- | |
|---|
| 1) 日本大学特待生：学業成績優秀にして品行方正な学生に対し、毎年度選考の上、特待生として、いずれかの奨学金を給付（甲種：授業料1年分相当額の半額及び図書費12万円、乙種：授業料1年分相当額の半額） |
| 2) 日本大学創立130周年記念奨学金（2種）：経済的理由により学費等の支弁が困難である学部生（年額30万円） |
| 3) 歯学部佐藤奨学金（第1種）：学業成績が優秀な学部生（年額20万円あるいは10万円） |
| 4) 歯学部佐藤奨学金（第2種）：課外活動等に顕著な功績のある学部生（年額10万円） |
| 5) 歯学部佐藤奨学金（第3種）：海外で開催される学会で研究発表をする2～3年の大学院生（年額上限50万円） |
| 6) 歯学部同窓会奨学金：学業優秀で課外活動に顕著な成果を収め、学部の発展に貢献した学部生（年額10万円）及び学部学生への学習指導貢献が顕著である大学院生（年額5万円） |
| 7) 日本大学古田奨学金：学業成績が優秀で人物が優れている大学院生（年額20万円） |
| 8) 日本大学ロバート・F・ケネディ奨学金：学業成績が優秀で人物が優れている大学院生（年額20万円） |

2. 貸与型奨学金

- | |
|--|
| 1) 日本大学歯学部佐藤奨学金：人物が優れ、不測の事態により経済的理由等で学業継続が困難な学生（高学年）に対して選考の上、授業料相当額を限度に日本大学歯学部が貸与。 |
| 2) 日本大学歯学部後援会奨学金：人物が優れており、将来歯科医師として有望であること。経済的理由により学費の納入が困難であり、かつ他の奨学金による支弁が受けられない5年生以上の学生（原則として当該年度の授業料相当額以内）に貸与。 |

3. 学外奨学金

- | |
|---|
| 1) 日本学生支援機構奨学金：学部生及び大学院生には「第一種（無利子貸与）」、「第二種（有利子貸与）」があり、多くの学生に貸与されている。将来の返還については、次の世代の奨学金となるため、厳格な仕組みで運用されている。また、授業料等減免・給付型奨学金などもあり。詳細は http://www.jasso.go.jp/ を参照。 |
| 2) 森田奨学育英会奨学金：学部6年生又は大学院4年生で、学業・人物ともに優秀かつ健康と認められる者に対して、選考の上奨学金が給付。 |
| 3) NSKナカニシ財団奨学生：学部学生および大学院生で、学業・人物ともに優秀かつ、経済的理由によって修学が困難なものに対して、選考の上で奨学金が給付。 |

4. その他の制度

提携教育ローン制度等もあり、上記を含めて詳細の問い合わせは学生課まで。

【問い合わせ先（学生課）】

03-3219-8004 (de.student@nihon-u.ac.jp)

(教授 歯科矯正学講座)

学生生活を取り巻く現状について ～第86回私立大学歯学部学生生活協議会に参加して～

学生担当 本吉 満

令和6年10月16日に第86回私立大学歯学部学生生活協議会がホテルメトロポリタン盛岡にて開催されました。本会は年1回、日本私立歯科大学協会が主催する協議会で、全国私立大学歯学部の学生生活指導を担当する教員および職員が一堂に会し、各大学内で直面する学生生活や教学に関する問題を持ち寄り、各大学での現状を情報共有して問題解決策を協議するというものです。今回は岩手医科大学が当番校となり、同大学の歯学部学生部長が議長となって議事が進行されました。

本協議会は、各校から事前に議題を取り纏め、各議題について一つずつ協議する形式で執り行われます。例年20題ほどの議題が挙がるのですが、今回は30を超える議題が挙がり、4～5時間に及ぶ活発な議論が交わされました。議題として多く挙げられていた項目は、学生への合理的配慮、メンタル対応、欠席の取り扱い等で、Covid-19の蔓延により大きく変化した環境が学生生活に少なからず影響を与えているものと思われました。以下に主だった議題と各大学での対応について纏めさせていただきます。

1. 学生に対する合理的配慮と学習支援について

本学では配慮申請があった場合の対応マニュアルを設けている他、本部に学生支援センターが設置されていて、教職員を対象とした学生支援関係の研修会が開催されています。これにより、本学では申請状況に応じて速やかに対応してきた実績がありますが、他校においては都度個別に対応する、または対応実績が無い大学が多い印象でした。一部の大学では本校と同様に学生支援室を設置するなどの対応をされている大学もありました。

2. 学生に対するメンタル面での対応について

本学では年1回、全学生を対象にメンタルヘルス調査を行い、ハイリスク学生を対象にカウンセラー等による面談を実施している他、学生からの要望に基づき、学年主任・担任、インテーカー、カウンセラーによる面談を実施しています。他校においても本校と同様の対応を行っている大学が多い印象でした。

3. 欠席の取り扱いについて

本学ではパンデミック収束後の出席率が回復せず、多くの学生が対面での授業を欠席する傾向がみられたため、1/3以上欠席した学生の再試験受験資格を認めない方針をとりました。しかしそれに関わらず、1/3を許容範囲と捉える学生がいて、ギリギリ1/3を欠席する学生が多い現状にあります。一方、他校においては、ほとんどの大学で4/5以上（一部で3/4以上）の出席を進級要件、すなわち1/5（1/4）以上の欠席者に定期試験の受験資格を認めない方針をとっており、パンデミック前後の出席率に差はないとする回答が多い印象でした。一部の大学では対面授業の出席率を上げるため、動画収録を取りやめたところもありました。従来の経験から授業出席率と学業成績との間に明らかな相関関係が有り、欠席率が多い学生の成績低下がみられることが明らかとなっており、出席率の向上は成績向上のための喫緊の課題となっています。今後は他大学の対応を参考に本学での取り扱いを考慮する時期に来ていると強く感じた次第です。

本学では学生への合理的配慮、メンタル面での対応に関する体制が整っています。些細なことでも良いので悩み事や気になることがあったら、学生課員またはクラス担任の先生に気軽にお声がけください。親身になって相談に乗ってくれるはずですよ。また、対面で定時に開始され、定時に終わる授業は、学生の皆さんにとって生活のリズムを整えるために極めて有効であり、効率的な勉強のスケジュールをこなしていくためにも規則正しい生活を送ることが重要と考えます。現在、精度の高い出欠席システムの構築にむけて努力している最中ですが、学生自身はもとより、御父母におかれましては本学の取り組みへのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。
(教授 歯科矯正学講座)

令和6年度 全学FDワークショップ

日 時：令和6年8月28日(水)・29日(木)
28日 9:30～18:00
29日 9:00～18:00
場 所：日本大学会館

江島 堅一郎

令和6年度全学FDワークショップが日本大学会館で行われました。今年度のテーマは、昨年度同様「大学教育における課題の解決に向けて一教育能力の開発 (Faculty development) を企画・運営できる人材の育成」について、初年次教育の重要性と問題点について話し合われました。今年は参加者およびタスクフォースの教員46名が6グループに分かれ、活発な議論が行われました。最終日には、日本大学教育憲章をベースにシラバスを立案・作成し、各グループがプレゼンを行い質疑応答や議論が行われました。

初年次教育についてはどの学部でも重要と捉えられていましたが、学部ごとに教育内容が異なり、とくに医療系ではその差は大きく、シラバスを作成する上で考え方や感覚に違和感を持ちました。シラバス作成は大変でしたが、作成する過程を系統的に学ぶことができました。ワークショップには学生も参加しており、質問や素直な意見から、学生の意識の高さに感心しました。本ワークショップで得られた経験を今後の教育現場で活かし、より良い教育環境の構築に役立つことができれば良いと思いました。

(専任講師 歯科放射線学講座)



令和6年度 日本大学 学生FD CHAmmit

日 時：令和6年9月29日(日) 13:00～17:00
テーマ：セッション① 他の人にオススメしたい授業
セッション② 自分が受けた授業で見つけた改善すべき点
セッション③ 私たちが未来に活かすためには
場 所：日本大学会館、通信教育部

佐藤 陽向

日本大学の各学部の学生・教職員がこの機会に集まり、「他の人にオススメしたい授業」というテーマについて話し合いました。他学部で行われているその学部ならではの様々な授業を知る機会になり、多種多様な将来のビジョンを持った学生の意見を知ることが出来ました。また、こうした機会は全16学部を持つ日本大学の強みであると感じました。最後は各学部ごとにそれぞれがグループワークで話し合った内容をもとに「自分が受けた授業で見つけた改善すべき点」と「私たちが未来に活かすためには」について、それぞれ提案書を作成しました。この提案書を通じより良い学生生活、本学部の発展に貢献できれば幸いです。

(第3学年)

竹鼻 康輔

令和6年度のFD CHAmmitでは、各学部の学生が主体となり教員や職員との交流を踏まえて、「自主創造」をテーマにグループセッションを行いました。学生がセッションを取り仕切り、学生間で積極的に意見を出し合う姿がみられました。普段交流が少ない他学部の学生との交流の場は非常に貴重で、様々な角度からの話し合いができました。また、歯学部の学生と討論を交わすことで、学生の素直な意見を聞くこともでき、今後の大学づくりや授業の改善に生かしていけるのではないかと考えさせられました。

(助教 歯科理工学講座)



リーダーズキャンプに参加して

佐藤 智尋

リーダーズキャンプが11月9日、10日の2日間にわたり日本大学軽井沢研修所で開催されました。アンケートの結果等をもとに各学年、各クラブの問題点を共有し、充実したより良い学校生活が送れるよう沢山の具体策が出る内容の濃い会議が行われました。

懇親会では、普段関わりのない学生同士で話すことで、クラブを継続させて行くことの難しさや、リーダーとしての大変さを共有する時間となりました。また、来ていただいた先生方とはそれぞれの専門を決めた理由を皮切りに、歯学部生の未来について熱く語り合ことができました。

この2日間を通し、先生方や後輩と同じ時間、空間を共有することで、後輩たちのリーダーシップの素晴らしさを感じるとともに、参加最上級学年の学生としての自覚や、先輩方が作り上げたものを今後引き継ぐ責任をあらためて認識する機会となりました。

(第5学年)

森川 元就

2年生で初めてリーダーズキャンプに参加し、先輩方のリーダーシップと責任感の強さに深く感銘を受けました。協議・審議の場では、先輩たちがクラブ活動や学生会の役割を真剣に捉え、後輩たちが安心して活動に参加できる環境を整えるために、主体的に意見を出し合い、行動する姿が印象的でした。クラブ勧誘活動や桜歯祭・球技大会運営に関しても、細かなルールを設けて透明性と公正さを守る工夫がされており、リーダーとしての大切な役割を学びました。今後は、自分がその一員として次の世代を支えていく立場になることを自覚し、先輩方を手本にしながらリーダーシップや協調性を育みたいと思います。学生全体にとって魅力的で有意義な活動の場を整え、次の世代に良い影響を与えられるよう、私自身も成長していきたいです。

(第2学年)



解剖体追悼法要

ソブハン モスタファ

解剖体追悼法要に出席し、私が最も感じたのは、医療と人間の尊厳の深い結びつきでした。この法要は、医療の教育や研究のために無償で体を提供してくださった方々に敬意を表し、感謝の意を捧げるための儀式です。医療学生として、その場に立つことで自分たちがどれほど大切な学びの機会を得ているか、そしてそれが他者の善意と犠牲に支えられていることを強く認識しました。この法要を通して、私自身、解剖学という学問に向き合う姿勢が変わったように思います。これから先も、自分が学ぶ知識や技術の背景には、常にこうした献体者の方々がいらっしゃることを忘れずにいたいと感じました。そして、これらの貴重な学びを社会に還元し、献体者の意志に報いることが、医療従事者としての自分の使命であると心に刻みました。

(第2学年)



桜歯祭を終えて



桜歯祭実行委員長 福島 金龍

桜歯祭お疲れ様でした。今年の学園祭は去年や一昨年の桜歯祭ではやる事が出来なかったフリーマーケット企画が復活し、また図書館を使ったスマイルキャンパスプロジェクト【ドーナツプロジェクト】

等、大いに盛り上がりを見せました。今年の桜歯祭を大成功に収めることができたのも、桜歯祭実行委員幹部をはじめ、桜歯祭実行委員、そして桜歯祭に携わって頂いていた先生方の力のおかげだと思っています。今回の桜歯祭のテーマ「起歯廻生」にもあるように、これから先、生きていく上で思い出されるような学園祭にすることが出来ました。皆様の功労に感謝致します。有難う御座いました。

(第4学年)

イラスト企画長 今仲 晏智

今年の桜歯祭の一番の目標は”まつり感”をいかに出すかであった。結果として来場者に限らず委員のメンバー自らも”まつり感”を実感し、桜歯祭を運営する実感も得られたのではないだろうか。さらに後輩学年、特に一年生の委員メンバーにはとてつもない可能性を感じさせてもらえた。来年以降の”まつり感”にも期待である。

(第4学年)

部活企画統括 田中 憲聖

私は部活企画統括として各企画と学生課との架け橋となり、企画の準備や撤収、備品管理を統括させていただきました。今年度の桜歯祭は大きな盛り上がりを見せた反面、大変なことも多かったですが、後輩達に助けられながら無事に閉幕を迎えられました。桜歯祭に携わった皆さん、本当にお疲れ様でした。

(第4学年)

芸能人企画企画長 堤 有理

今年はガンバレルーヤさんをお招きし、お笑いライブを開催しました。初めて整理券を配布しての開催でしたが、無事完売し大盛況に終わることができました！出演者の変更など大変なこともありました。当日は大きなトラブルもなく、観客の皆さんの笑顔を見ることができて嬉しく思います。ありがとうございました！！

(第4学年)

会計担当 小澤 心平

賑やかだったあの日々も、こうして幕を下ろす日が来ました。今回、会計という分野から桜歯祭運営に関わり、時折困難に直面しつつも、仲間たちと共に沢山の学びを得ることができました。

来ていただいたお客様や本学の皆様に少しでもお楽しみいただけたなら大変光栄です。心より感謝申し上げます。

(第4学年)

広告協賛担当 赤松 孝則

「桜歯祭」お楽しみいただけましたでしょうか。皆で色々な想いを込めて一つの「祭」を創り上げる姿は、美しく輝いておりました。広報活動によって一般に開かれ、駿河台に根差した「桜歯祭」が今後も歯学部生の楽しみであり続けて欲しいものです。そんな願いがテーマ「起歯廻生」には込められているのでしょうか。

(第4学年)



いちにち歯医者さんを終えて



企画長 甘利 美奈

「いちにち歯医者さん」では、一般の来場者が歯科医師の仕事体験できる企画です。今年度は例年、好評である切削や印象企画に加え、衛生学校の生徒さんによる歯ブラシ指導も体験して頂き、より歯科医療に興味を

持つきっかけをご提供できたのではないかと思います。また、初めて体験する1年生に対して上級生が教え合い、協力していた事で学年を超えた交流の場となりました。企画を無事に終えることができたのは、ご支援いただいた先生方、忙しい中熱心に働いてくれた委員の皆さんのおかげです。ありがとうございました。今回の反省を生かして、来年度も実りある企画となるよう、精一杯サポートさせていただきます。

(第4学年)

駿技祭を終えて



実行委員長 飯田 萌音

本年度の駿技祭では、歯科技工物の展示と歯科技工関連グッズを製作し、販売を行いました。歯科技工関連グッズは、シルバーアクセサリ、セクシー小臼歯と大白

歯、熊のキーホルダー等を製作しました。昨年度と同様に今年も販売前から行列ができ、ご好評いただいたことを大変うれしく思います。今年は、同窓会長をはじめ非常勤の先生達や卒業生の方が多く来ていただき、そして手伝いもしていただいたことでたくさんの良い思い出ができました。この行事を通して学年を超えた親交が深まり、文化祭とともに作り上げられたことはとても良い経験となりました。駿技祭の運営にあたり、ご協力いただきました教職員の方をはじめ、桜歯祭と翔衛祭の実行委員のみなさま、全ての方に心より御礼申し上げます。(技工専門学校第2学年)



芸能企画で来校した
ガンバレルーヤさんと一緒に



翔衛祭を終えて



実行委員長 難波 望

今年の翔衛祭はイチゴ飴販売と歯磨き指導の企画を行いました。1年生と2年生で協力して運営をしたことで、学年を越えて絆が深まったように感じています。

食品を販売するのはコロナ禍以降初めてで手探りでの運営となりました。イチゴ飴はイチゴの他にブドウやミカン、マシュマロを串に刺し、飴でコーティングして販売しました。パリパリとした食感と可愛い出来栄となり、ご来場いただいた皆様からも好評を得ることができました。



また歯磨き指導も久しぶりの企画となり、希望された方にはお口の中の磨き残しを赤く染色し、歯に着いた汚れを鏡で確認いただきながら歯磨き方法を指導しました。多くの方にお楽しみいただけて大変嬉しく思っております。

今回の翔衛祭を通して様々な方と交流する機会を得ることができ、大変貴重な経験となりました。翔衛祭の運営にあたり、ご協力いただきました先生方をはじめ桜歯祭実行委員の皆様、全ての方に心より感謝申し上げます。(衛生専門学校第2学年)



令和7年度 歯科医師臨床研修選考試験



卒後教育担当 萩原 芳幸

令和6年7月27日(土)に本学部付属歯科病院臨床研修歯科医の選考試験が実施されました。本年度は募集定員109名に対し受験者数227名(志願者229名)でした。

本学部付属歯科病院はより豊富な臨床経験を獲得することを目的として令和7年度から2種類の臨床研修施設群方式を設定しています。

1. S・C・O・Pコース〔口腔外科・保存科・口腔診断科または小児歯科・補綴科のいずれかを6ヶ月協力型(I)臨床研修施設で6ヶ月〕
2. CDコース〔総合診療科と協力型(II)臨床研修施設(年間5日から30日)〕

その他にも本学部付属歯科病院臨床研修の特色として島しょ地区(伊豆諸島)での離島歯科診療研修など学外での研修プログラムも準備しております。

臨床研修歯科医選考基準は書類審査面接および筆記試験で構成されており書類審査では5年次までの学業成績などを評価します。なお本学部生(既卒生を含む)は面接を実施しない代わりに在学中の生活態度授業態度出欠席状況・部活動・学内外における学校行事への参加状況および表彰歴などを評価します。一方他大学受験者に対しては本学卒業生と切磋琢磨して研修できる人材を選考することを目的として「面接」の方法は個人面接の形式を採用しております。詳細は本学部付属歯科病院のホームページの「研修歯科医サイトはこちら」をご参照ください。

本歯科病院にマッチングした方はもちろんのこと本学部の6年生全員が歯科医師国家試験に合格し令和7年度の歯科医師臨床研修を開始できることを祈念致しております。(教授 歯科補綴学第II講座)



昔は良かった病

清水 治



医療安全は、1999年横浜市立大学病院の手術患者取り違え事故事例に端を発し、その後の数施設での重大事故事例発生から医療事故・安全対策への関心が高まり、2001年に国の施策として始まったものです。この

施策は以前の『個々人の注意で防ぐことが出来る』から『To err is human. 人は誰でも間違える』を前提にしたシステムズアプローチの考え方を導入したものです。日本大学歯学部付属歯科病院においても医療安全マニュアルが作成され、医療安全、感染、医薬品、医療機器および個人情報に関する指針が定められ年2回の講習が行われています。私が口腔外科の医局に残った時の歯科病院での医療安全と比較すると隔世の感です。当時は口頭説明のみで抜歯、手袋なし素手で外来小手術、タービンヘッドの末滅菌等々枚挙にいとまがありません。今では歯科用CTを撮影し、滅菌グローブを装着し、マイクロスコープを使って根尖切除術を行う時代です。その分、書類の数は多くなってきました。手術承諾書・歯科疾患管理料・歯科特定疾患療養管理料・周術期等口腔機能管理料・診療情報等連携共有料・診療情報提供料等外来だけでもこの多さです。患者さんの歯科口腔機能を管理し指導するために書類作成が必要で、実際の診療よりも書類作成に時間が割かれている印象です。昔は紙カルテと処方箋を手書きしていただけて、それ以外書類作成はありません。しかし、これだけの書類を書いている中でも医療安全の案件は減少していきません。個人情報漏洩・医療安全に関するトラブルクレーム・SNSによる誹謗中傷などこれから更に増加してくるはずで。またAI、ダビンチによる遠隔操作、それに伴う訴訟・賠償など考えられない未来になるのかもしれませんが。年齢を重ねると『昔は良かった。今の人は大変だ。』とよく口にします。恐らく何十年後も昔は良い時代だったと振り返ることでしょう。

(教授 口腔外科学第II講座)

日本大学歯学部歯科放射線学講座・
開設100周年を迎えて

本学での40年を顧みて

本吉 満



大学卒業の年である1984年当時、歯科矯正学講座主任教授であられた納村晋吉先生の部屋を緊張でガチガチになりながら訪れたのを今でも覚えています。以来40年を超える月日を当講座で研究、臨床、教育に勤し

んで参りました。臨床に直結する研究に興味を持ち、Biomechanicsに関わる研究をして来ましたが、我ながら歯科矯正用アンカースクリューの開発と薬事承認に貢献できたことは赫々たる成果であると思っています。

四半世紀程前の2000年頃に研究費を取得後、即時牽引を可能とするアンカースクリューの開発に着手し、動物実験や力学的解析を行い、これらの結果を基に、試作品を製作しました。大学内でこれを使用するには、倫理委員会からの承認が必要となりますが、前例がないということで承認がなかなか得られず、このときは先の見えない暗闇のトンネルに迷いこんだような心境でした。その後4回の委員会を経て、ようやく認可を受け、大学病院内での使用が認められ、臨床への応用により、動物実験等の基礎研究では解らなかった部分が明確になりました。これらの研究データを基に改良を加え、製品化するところまで漕ぎ着けることができました。歯科矯正学において確実な固定源を確保することは究極の課題であり、絶対不動の固定源は夢の存在でした。アンカースクリューはこの問題を解決した革命的なデバイスであり、現在は多くの矯正歯科医に用いられ、世界に広く普及しています。

講座主任就任期間の7年間の内、4年間はパンデミックの渦中にあり、十分な活動が出来なかったのが心残りですが、臨床面においてはアイデア次第で短期に伸ばすことが出来ますので成果が出たのは良かったと思っています。リンガルブラケットやアライナーの導入により、矯正科の年間収入が2倍を超えるところまで達成され、病院経営に少しでも貢献できた事を嬉しく思っています。一方、頑張ってくれている医局員への還元が不十分で、若い医局員は2人で一つの机を使う状況にあり、劣悪な環境で勤務させてしまっていることを申し訳なく思っています。稿を終えるにあたり、次世代においては是非この点を改善していただくことを祈念すると共に、今まで支えてくれた歯科矯正学講座医局員各位に心より感謝申し上げます。

(教授 歯科矯正学講座)

定年のご挨拶に代えて

新井 嘉則



歯学部創立者の佐藤運雄先生は医学的歯学を实践する一環として“最新の放射線学”を歯科医学に応用することが重要と考えられて、当講座を1924年に開設されました。この年は、本学の創立から8年目にあたりました。

その前年には関東大震災で歯学部の校舎は焼失し、大きな危機を迎えていたと伺っています。そのような中で、佐藤運雄先生が当講座の開設をご英断されたことに心から感謝申し上げます。

初代教授には照内昇先生が就任されました。それ以来、鈴木勝、安藤正一、西連寺永康、篠田宏司、本田和也(敬称略)と続いてまいりました。その間に、口内法X線撮影装置、パノラマ撮影装置、口内法X線TV装置、顎関節撮影法および歯科用コーンビームCTの開発が行われました。これらも、皆様からの多大なご支援のおかげがあったのことと、心から感謝しております。

小職は本年度末で、主任教授を定年退職するところです。この年に当講座が開設100周年をむかえることができたのも、佐藤運雄先生のお導きかと存じます。1984年に当講座の大学院に入学いたしました。当時開発は絶対不可能といわれていた“歯科医療に最適化した歯科用コーンビームCT”を世界で初めて開発に成功いたしました。これも開設100年を迎える当講座の諸先輩方の多数の業績の上に成り立ったものでありました。これらに感謝を申し上げます。

今！口腔と全身の健康との関係が注目されています。学生の皆さんのおいては、10年20年後に“国民に奉仕する歯科医師”となった自分の姿を描いて、それを実現するために“行ふべきこと”を一生懸命に行なってほしいと思います。

末筆となりましたが、皆様のご多幸ご祈念申し上げます、本学の益々の発展をご期待いたします。

(教授 歯科放射線学講座)

米国への長期海外派遣

蓮池 聡

令和5年3月から令和6年10月にかけて、私はアメリカ合衆国メリーランド州にあるAmerican Dental Association Science and Research Institute (ADA SRI)に研究滞在しました。この研究所は、かつて「パッフェンバーガー研究所」として本学とも深い交流があったと伺っております。今回、私は36歳の気鋭の研究者であるケビン・バード博士が率いるLab of Craniofacial Innovation (LOCI)に所属し、最先端のシングルセル解析および空間プロテオミクス技術を駆使した歯周病研究に取り組みました。この研究では、ヒトおよびマウスの歯周組織を対象に、歯周病の進行過程における細胞間および細胞-細菌間の相互作用を解析しました。これまで臨床に携わってきた私にとって、研究生活は非常に刺激的で、これまでにない貴重な経験となりました。

私が住んでいたメリーランド州ゲイザースバーグは、ワシントンD.C.とボルチモアの中間に位置する郊外都市で、どちらにも車で約40分という好立地でした。この地理的な利点を活かし、メリーランド大学歯学部歯周病学講座での臨床見学や文献抄読会に参加することができました。また、アメリカ国立衛生研究所(NIH)で活躍されている多くの日本人研究者とも交流する機会を得ました。さらに、東海岸に位置するノースカロライナ大学、ペンシルベニア大学、ラトガース大学、ハーバード大学の歯学部を訪問し、日本の歯学教育の未来について多くの示唆を得ることができました。

家族全員でアメリカでの生活を共有できたことは、私にとってかけがえのない思い出となりました。妻とふたりの子供に、心から感謝しています。また、このような機会を与えてくださった前歯学部長の本田和也教授、渡航の許可をくださった佐藤秀一教授、そして歯周病学講座の医局員の皆様に、改めて深く御礼申し上げます。

(専任講師 歯科保存学第Ⅲ講座)



いま夢中です、
この仕事！

スポーツを通じた多様性の理解

佐藤 紀子

本学部に勤務して次の4月で22年目を迎える。その間、一貫して継続してきたことがある。視覚に障害のある人の競技スポーツ、レクリエーションスポーツ充実のためのスキーやボウリングを通じた活動である。

担当する「スポーツ健康科学1、2」(2022年度までは「生涯スポーツ」「健康と運動の基礎理論」)では、私自身が経験してきたことを踏まえ、共生社会の実現に寄与できる人間の育成を目指して授業を展開している。歯学部で働き始めたころ、ある学生に言われた言葉が忘れられない。「先生、障害者がスポーツをする必要なんてありますか？」これから医療に、そして人に関わろうとしている学生の言葉とは思えなかったが、今のようにテレビやニュースで障害のある人のスポーツを目にする機会も少なかった時代だ。それも致し方なかったと、今は思う。

障害には「機能障害」と「障害」という側面がある。「機能障害」とは個人の心身の機能的な側面を指す概念で、「障害」とは障害者が直面する不平等や差別、参加の制約などの社会的な面を指す概念である。機能障害により障害が起こるという見方は「個人モデル(医学モデル)」と呼ばれる。一方で障害は機能障害によってではなく、多様な人々を考慮しない社会や環境の障壁によって生じるという見方は「社会モデル」と呼ばれる。^{*}

視覚に障害のある人がスポーツを行うには、特性に合わせたルールや用具の工夫が必要となる。障害者のスポーツを通して、学生には多様な人々のニーズについて目を向けてもらいたいと願っている。目の見える人の世界では見えない人はマイノリティであり、視覚障害者スポーツに関わる中で、なかなか理解してもらえないこともあった。最近、「ダイバーシティ&インクルージョン」は確かに進みつつあると、肌で感じる。これからも微力ながら、環境づくりをしていくとともに、そこから学んだことを学生にも伝えていきたいと考えている。(准教授 健康科学分野)

^{*}久野研二(2018) 社会の障害をみつけよう——一人ひとりが主役の障害平等研修。現代書館



令和6年度 公開講座について

清水 康平

去る11月30日、「みんなで『食べる』を支えよう～イートロス対策していますか～」というテーマで、今年度より摂食機能療法学講座主任教授にご就任された米永一理先生に、企画・広報委員会からご講演依頼をさせていただきました。米永先生は、歯科医師免許と医師免許を持つダブルライセンスドクターとして、日々各方面にて活躍されています。以下に、米永先生にご開示いただいた本講演会の抄録をご紹介します。

「人の3大苦痛として、疼痛、うつ、カヘキシアがあります。この中でカヘキシアは、悪液質とも呼ばれ、食べられずに衰弱し、やせ細った状態をいいます。つまり、食べられない状態が続くこと(=イートロス)は苦痛の原因となり、解決すべき課題です。



また、人が生きていく上での基本的な欲求として、睡眠欲、排泄欲、食欲があります。この中で睡眠と排泄は、たとえ介護が必要な状態になっても、満たすことができます。しかしながら、食欲だけは誰かに介助をしてもらわないと満たすことができません。

このようなことから、生涯的に『食べる』を維持することが重要です。そのためには、口腔機能が衰えないようオーラルフレイルについて知り、イートロスの苦痛を経験しないようイートロス予防ができる必要があります。さらには多職種連携の先にある、医療と市民（住民）、市場（産業）、市政（行政）との連携をする医市連携（いしれんけい）を行うことも重要となってきています。よって今回、この連携の例を交えながら、みんなで「食べる」を支えられるよう、イートロスの観点から対策をまとめます。」

今回の講演では、米永先生からイートロスという用語の語源や、実際の活動内容のご紹介など、専門的な知識をお持ちでない一般の方でも十分ご理解いただけるよう、平易なご解説をいただきました。講演後、質疑応答の時間には受講者から熱心な質問があり、盛況のうちに本講演会の幕を閉じることができました。終了後のアンケートでも受講者からは満足度が高く、非常に肯定的な多くのご意見をいただきました。

結びになりましたが、本公開講座を開催するにあたり、摂食機能療法学講座主任教授米永一理先生に心より御礼を申し上げます。また、関係各位のご尽力に心から感謝申し上げます。（准教授 歯科保存学第Ⅱ講座）

人権侵害防止に係る 巡回講演会開催

令和6年12月17日（火）17時30分より教職員（非常勤教員、臨時職員、派遣職員等を含む）を対象とした日本大学人権侵害防止委員会主催による、人権侵害防止に向けた意識の醸成を図ることを目的とした講演会が、歯学部創設百周年記念講堂で開催された。弁護士、人権救済委員会委員、人権アドバイザーである宇田川靖子氏を講師にお迎えし、「ハラスメントのない就学・就業環境を目指して」（演題）の御講演をいただいた。質疑応答を含め、約1時間、ハラスメントに関する基礎知識及び本学の取り組みについて理解するとともに実際に生じた事例の解説等をまじえた講演会であった。



父母懇談会開催

令和6年10月5日（土）本館において、個人面談が開催された。

学年主任・クラス担任・学年ごとに配置された学務委員ならびに学習指導委員の多数の先生方による学年別個人面談が行われた。329名の多数の父母が来校され、子女の成績・進級・学生生活や出欠状況等の話が各ブースで熱心になされた。また、面談終了後には、父母と教員との懇親会が銀座アスター御茶ノ水賓館において和やかに開催された。



佐藤会

令和6年11月9日（土）に、本学部創設者の佐藤運雄先生のご遺徳を称えて毎年開催されている佐藤会が行われた。当日は同窓会より役員、本学部より教職員ならびに学生が佐藤先生の菩提寺の青松寺へ墓参し、13時から式典を歯学部本館創設百周年記念講堂で挙行了。同窓会員と関係者が参集し、叙勲者紹介、名誉会員記贈呈、佐藤賞授与が行われた。本年度の佐藤賞は学内から松本邦史先生（歯科放射線学講座准教授 学50）「画像診断に基づく顎関節円板障害のリスク因子の探索に関わる研究」、学外から田中章寛先生（学45）「摂食嚥下障害を有する進行性核上性麻痺の要介護高齢者に対して人生の最終段階まで口腔健康管理を行った一症例」に授与された。

3学部合同 学生選書ツアーに参加

図書館事務課

11月9日に紀伊國屋書店新宿本店にて、法学部、三軒茶屋キャンパスとともに、選書ツアーを開催しました。選書ツアーとは、書店へ行き本を手にとって図書館に所蔵する本を選ぶ企画です。書店さんとの連携により、選書だけではなくポップ作成講習会やお薦め本のプレゼン会などが行われました。歯学部からは、衛生専門学校1年の松田莉奈さんと図書館職員1名が参加し、法学部から8名、三軒茶屋から3名の学生が参加しました。選書ツアーは学生なら誰でも参加できます。開催時は告知をしますのでぜひ参加してみてください。



前列右から3人目が松田莉奈さん

■附属専門学校から

歯科技工専門学校

10月に開催されました駿技祭では、同窓会長をはじめ非常勤講師と卒業生の多くの方々に支援していただきましたこと感謝申し上げます。学生達は昨年同様に夏休みを利用して駿技祭の準備をしており、販売品は来客者からとても好評で、すぐに完売しました。また、販売品は教員と学生との共同製作であり、当日も含めて両者ともにコミュニケーションを図る良い機会となりました。販売品の製作過程は歯科技工士に必要な技能の習得に役立つ内容であり、学生にとって良い経験になったと思います。3年生は、11月に全国歯科技工士教育協議会主催の実技評価試験を終え、いよいよ卒業と国家試験に向けて、ラスト



トスパートに入ってきました。3月の卒業式には全員国家試験に合格して春を迎えたいと思います。

歯科衛生専門学校

令和6年11月1日に、歯学部創設百周年記念講堂にて歯科衛生専門学校第65期生（2年生）の戴帽式を執り行いました。これまでは、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、3密を避けた略式で執り行っておりましたが、本年からは個々の学生の呼名、戴帽後、学生達が灯すキャンドルの灯りの中での宣誓を経て、校長式辞、歯学部長告辞、病院長訓辞、そして最後に校歌斉唱を行うという従来の形式で、厳粛な雰囲気の中、式は終了しました。尚、1年生は相互実習が始まり、忙しい毎日を送っています。教職員一同、歯科衛生専門学校生が毎日充実した学生生活を過ごせるように、全力でサポート、および応援をしていきます。



NewsPlus α

☆「日本大学 違法薬物追放ウィーク」開催

違法薬物のない学生生活を送るために、断る勇気と相談する勇気が必要です。以下のURL（日本大学HP）にて違法薬物に関する知識や専門相談窓口がまとまっている情報等を掲載していますので、ご確認ください。

https://www.nihon-u.ac.jp/campuslife/counseling/illegal_drugs/



☆令和6年度桜歯祭

スマイルキャンパスプロジェクト in 歯学部開催

林理事長と大貫学長が、学部を横断して行っている日大生に笑顔とドーナツを届けるプロジェクトです。日大生が元気で楽しい大学生活を過ごせるよう、また日大生同士の交流を通して日大生のアイデンティティを高めてもらえるイベントを開催しようとするおふたりの思いがこもったプロジェクトです。



☆白菊会連合会総会が開催されました

令和6年11月10日（日）日本大学法学部大講堂において、本学部が当番校として開催しました。白菊会連合会に加盟をしている医歯系大学（9大学13学部）に御献体登録をされている会員478名が参加され、文部科学省高等教育局医学教育課長ならびに日本解剖学会理事長や各献体団体の代表者からのご祝辞をいただきました。



☆インフルエンザワクチン接種が実施されました

令和6年11月5日（火）学部第6学年学生、技工・衛生専門学校第3学年生徒の希望者に実施されました。

☆令和6年度1月から3月の図書館開館時間等について

国家試験受験勉強の支援のため、平日の閉館時間を1時間延長します。年度末については開館時間を短縮します。

【開館時間延長】

1月8日（水）から1月31日（金）

平日 9:00から22:00

土曜 9:00から18:00

【開館時間短縮】

2月27日（木）から3月31日（月）

平日 9:00から17:00

土曜 休館

学 事

令和7年度入学者選抜

【一般選抜（N全学統一方式第1期）〈日本大学が実施する試験〉】

- ◆募集人数 9名
- ◆出願期間 令和7年1月6日（月）～1月22日（水）（郵送必着）
- ◆試験期日 令和7年2月1日（土）
- ◆合格発表 令和7年2月10日（月）
- ◆入学検定料 24,000円
- ◆選考方法 ①数学①、②「数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A（図形の性質、場合の数と確率）、数学B（数列）、数学C（ベクトル）」、「数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A（図形の性質、場合の数と確率）、数学B（数列）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）」のうちから1科目選択 ②理科「物理基礎、物理」、「化学基礎、化学」、「生物基礎、生物」のうちから1科目選択 ※医学部を併願している場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。③外国語「英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ」

※数学において、指定科目以上受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。

※上記の得点を標準化得点に換算し、合否判定する。

※総合得点が同点の場合、外国語の点数が高い者を優先とし、さらに同点であった場合は理科の点数が高い者を優先とする。

【一般選抜（N全学統一方式第2期）〈日本大学が実施する試験〉】

- ◆募集人数 3名
- ◆出願期間 令和7年1月6日（月）～2月25日（火）（郵送必着）
- ◆試験期日 令和7年3月4日（火）
- ◆合格発表 令和7年3月13日（木）
- ◆入学検定料 24,000円
- ◆選考方法 ①数学①、②「数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A（図形の性質、場合の数と確率）、数学B（数列）、数学C（ベクトル）」、「数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A（図形の性質、場合の数と確率）、数学B（数列）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）」のうちから1科目選択 ②理科「物理基礎、物理」、「化学基礎、化学」、「生物基礎、生物」のうちから1科目選択 ※医学部を併願している場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。③外国語「英語コミュニケーションⅠ・英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ」

※数学において、指定科目以上受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。

※上記の得点を標準化得点に換算し、合否判定する。

※総合得点が同点の場合、外国語の点数が高い者を優先とし、さらに同点であった場合は理科の点数が高い者を優先とする。

歯学部行事予定

【一般選抜（A個別方式）〈歯学部が実施する試験〉】

- ◆募集人数 60名
- ◆出願期間 令和7年1月6日(月)～1月22日(水)
- ◆試験期日 令和7年2月3日(月)
- ◆合格発表 令和7年2月10日(月)
- ◆入学検定料 50,000円
- ◆選考方法 ①数学「数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A(図形の性質、場合の数と確率)、数学B(数列)、数学C(ベクトル)」②理科「物理基礎、物理」、「化学基礎、化学」、「生物基礎、生物」のうちから1科目選択 ③外国語「英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ」④小論文(60分・字数は当日指定) ⑤面接

※小論文および面接にはそれぞれ最低基準を設け、基準に達しない場合は、総合得点が合格最低点を超えていても不合格となる。

※学力検査、小論文、面接の総合得点が同点の場合、小論文と面接の合計点が高い者を優先とし、さらに同点であった場合は面接の点数が高い者を優先とする。

【一般選抜（C共通テスト利用方式第1期）〈大学入学共通テストを利用する試験〉】

- ◆募集人数 7名
- ◆出願期間 令和7年1月6日(月)～1月22日(水)
- ◆試験期日 ◇大学入学共通テスト
令和7年1月18・19日(土・日)
- ◆合格発表 令和7年2月19日(水)
- ◆入学検定料 24,000円
- ◆選考方法
◇大学入学共通テストでは、下記の教科・科目を受験すること。
①国語「近代以降の文章」②理科「物理」、「化学」、「生物」のうちから1科目選択 ③外国語「英語」

※「理科」において2科目受験した場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。「英語」については、リスニングの成績は利用しない。「国語」については大学入試共通テストの配点を本学部の配点(100点)に換算し、合否判定する。

※総合得点が同点の場合、外国語の点数が高い者を優先とし、さらに同点であった場合は理科の点数が高い者を優先とする。

【一般選抜（C共通テスト利用方式第2期）〈大学入学共通テストを利用する試験〉】

- ◆募集人数 2名
- ◆出願期間 令和7年1月6日(月)～2月14日(金)
- ◆試験期日 ◇大学入学共通テスト
令和7年1月18・19日(土・日)
- ◆合格発表 令和7年3月4日(火)
- ◆入学検定料 24,000円
- ◆選考方法
◇大学入学共通テストでは、下記の教科・科目を受験すること。
①理科「物理」、「化学」、「生物」のうちから1科目選択 ②外国語「英語」

※「理科」において2科目受験した場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。「英語」についてはリスニングの成績は利用しない。

※総合得点が同点の場合、外国語の点数が高い者を優先とする。

1月	17日(金)	第5学年 CSX
	28日(火)	第4学年 CBT
	30日(木)	第5学年 CSX 追・再試験
2月	1日(土)・2日(日)	第118回歯科医師国家試験
	15日(土)	第4学年 OSCE
	27日(木)	第4学年 CBT 追・再試験
3月	1日(土)	大学院入学試験(第2期)
	8日(土)	第4学年 OSCE 追・再試験
	11日(火)	大学院入学試験(第2期) 合格者発表
	12日(水)	第1～5学年 進級者発表
	14日(金)	第118回歯科医師国家試験合格発表
	25日(火)	日本大学歯学部卒業式・学位記伝達式

お知らせ

寄付金の受け入れ

=研究助成金=

50万円	クラレノリタケデンタル株式会社 歯科保存学第Ⅰ講座へ (代表取締役社長 山口 里志 殿)	9.30
50万円	クラレノリタケデンタル株式会社 歯科補綴学第Ⅲ講座へ (代表取締役社長 山口 里志 殿)	//
30万円	株式会社デンタルアロー 歯科保存学第Ⅰ講座へ (代表取締役社長 小城 賢一 殿)	11.29
30万円	株式会社松風 口腔外科学第Ⅰ講座へ (代表取締役社長 高見 哲夫 殿)	//

=特別寄付金=

100万円	宮寄 健児 殿	11.6
-------	---------	------

編集後記

桜歯ニュースの編集に携わるようになり、読者の視点とは異なる立場から文章を味わう中で、その表現に込められた深い思いや巧みな情景描写に圧倒され、執筆者の卓越した文才に改めて魅了されています。

また、学生たちに執筆を依頼し、提出された文章に目を通すたび、その純粋な思いや率直な感情がまっすぐに伝わり、一つ一つの言葉に若い感性が息づいていることに感動を覚えます。まだ磨かれていないからこそ際立つ原石のような魅力があり、そこに新たな才能を見いだす喜びを感じています。これらの経験は、自分自身にとっても文章や表現の可能性を再認識する貴重な時間となっています。

一大イベントの桜歯祭では、さまざまな企画が行われ、どれも大盛況で、多くの人々の熱気と活気が歯学部全体に溢れているのを肌で感じることができました。この経験を力に、さらに実りある活動を目指したいと思います。(K.O)

林理事長・大貫学長を囲んで。スマイルキャンパスプロジェクト IN 歯学部開催時の集合写真、中村駿太さん(学生課)にご提供頂きました。